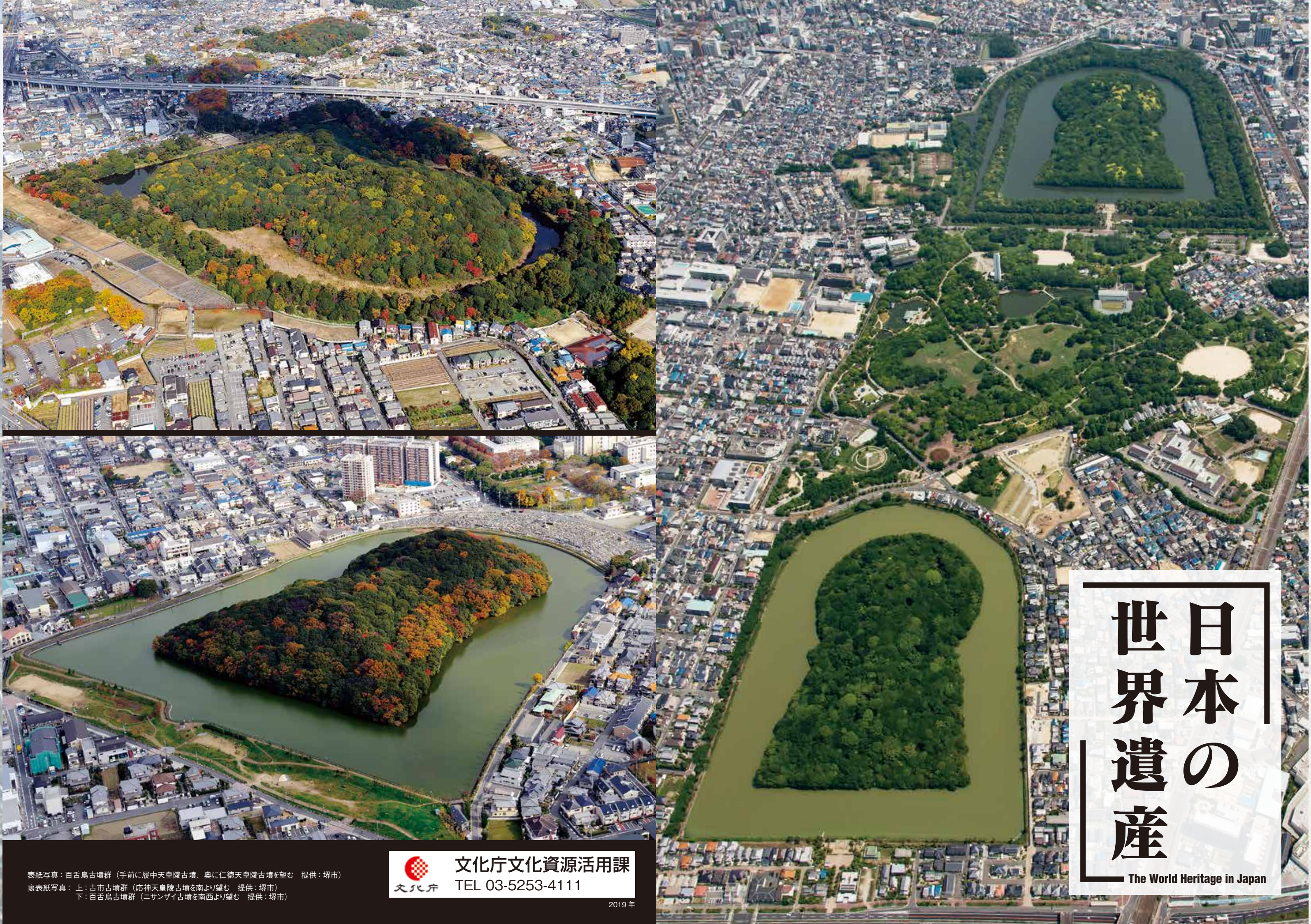




世界遺産リストに登録されるためには、「世界遺産条約履行のための作業指針」で示されている下記の登録基準のいずれか1つ以上に合致するとともに、真実性（authenticity）や完全性（integrity）の条件を満たし、適切な保護管理体制がとられている必要があります。

世界遺産の登録基準

- (i) 人間の創造的才能を表す傑作である。
- (ii) 建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すものである。
- (iii) 現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在（少なくとも希有な存在）である。
- (iv) 歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本である。
- (v) あるひとつの文化（または複数の文化）を特徴づけるような伝統的居住形態若しくは陸上・海上の土地利用形態を代表する顕著な見本である。又は、人類と環境とのふれあいを代表する顕著な見本である。（特に不可逆的な変化によりその存続が危ぶまっているもの）
- (vi) 顕著な普遍的価値を有する出来事（行事）、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学作品と直接または実質的関連がある（この基準は他の基準とあわせて用いられることが望ましい）。
- (vii) 最上級の自然現象、又は、類まれな自然美・美的価値を有する地域を包含する。
- (viii) 生命進化の記録や、地形形成における重要な進行中の地質学的過程、あるいは重要な地形学的又は自然地理学的特徴といった、地球の歴史の主要な段階を代表する顕著な見本である。
- (ix) 陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や動植物群集の進化、発展において、重要な進行中の生態学的過程又は生物学的過程を代表する顕著な見本である。
- (x) 学術上又は保全上顕著な普遍的価値を有する絶滅のおそれのある種の生息地など、生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息地を包含する。

日本の世界遺産マップ

- 文化遺産
- 自然遺産



日本の世界遺産

The World Heritage in Japan

表紙写真：百舌鳥古墳群（手前に履中天皇陵古墳、奥に仁徳天皇陵古墳を望む 提供：堺市）
裏表紙写真：上：古市古墳群（応神天皇陵古墳を南より望む 提供：堺市）
下：百舌鳥古墳群（ニサンザイ古墳を南西より望む 提供：堺市）

文化庁文化資源活用課
TEL 03-5253-4111

2019年

日本の世界遺産

アジアの最東端に位置し、四方を海に囲まれた日本は、四季折々に多様な表情を見せる豊かな自然に恵まれてきました。日本は長い歴史の中で、大陸を始めとする諸外国の文化を巧みに取り入れながら、その変化に富んだ自然に培われた感性に根ざした独自の文化を育んできたのです。

日本では、国民の文化的向上に資すると共に世界文化の進歩を図るため、文化財保護法や各地方自治体の定める文化財保護条例によって、有形と無形の文化遺産を、それぞれの特性に応じて保護しています。

また、国土の豊かな自然や生物多様性を保全するため、自然公園法や自然環境保全法などの法制度が整えられています。

近年、地域におけるボランティアやNPOの活動により、国民一人一人が文化財や自然に親しむ機会が増え、文化や環境の保護を行う試みが活発になっていきます。

二〇一九年七月現在、日本の世界遺産は二十三件登録されています。

二〇一九年七月現在、日本の世界遺産は二十三件登録されています。

世界遺産条約は一九七二年にユネスコで採択され、二〇一九年七月現在、百九十三か国が締結しています。日本も一九九二年にこの条約を締結し、文化遺産及び自然遺産を人類全体のための世界の遺産として損傷、破壊等の脅威から保護し、保存することが重要であると考え、国際的な協力・援助体制の構築に貢献してきました。

世界遺産は各国からの推薦を受け、二十か国で構成される世界遺産委員会の審査を経て登録されます。

二〇一九年七月現在、世界遺産は文化遺産八百六十九件、自然遺産二百十三件、複合遺産三十九件を含む千二百一十件に上り、そのうち日本では文化遺産十九件、自然遺産四件の計二十三件の世界遺産が登録されています。

背景写真：古市古墳群（南西より望む 提供：羽史野市教育委員会）



① 法隆寺地域の 仏教建造物

Buddhist Monuments in the Horyu-ji Area

構成資産：15 ha
緩衝地帯：371 ha

《奈良県》
登録：1993年
世界遺産登録基準：(i) (ii) (iv) (vi)

7世紀後半から8世紀初頭に建てられた世界最古の木造建造物。1300年余の伝統の中でそれぞれの時代の寺院の発展に影響を及ぼしており、日本の仏教寺院建築の変遷を理解する上で重要な遺産となっている。



提供：姫路市

② 姫路城

Himeji-jo

構成資産：108 ha
緩衝地帯：143 ha

《兵庫県》
登録：1993年
世界遺産登録基準：(i) (iv)

姫路城は、美しい白壁を有する平山城であり、「白鷺城」とも呼ばれている。天守閣群は大天守と渡櫓（わたりやぐら）で結ばれた3つの小天守からなる現存する日本で唯一の連立式天守である。日本における城郭建築技術の最盛期の建造物であり、城郭建築の最高傑作として、世界文化遺産に登録された。



③ 屋久島

Yakushima

構成資産：10,747 ha

《鹿児島県》
登録：1993年
世界遺産登録基準：(vii) (ix)

多雨に恵まれ、高峰が聳える山岳島である屋久島は、極めて特殊な森林植生を有している。海岸付近の亜熱帯植物から、暖帯、温帯、更に亜高山帯に及ぶ植生の垂直分布が顕著にみられる。また多くの固有植物、動物が自生していることからその特異な生態系は価値が高い。



④ 白神山地

Shirakami-Sanchi

構成資産：10,139 ha

《青森県・秋田県》
登録：1993年
世界遺産登録基準：(ix)

白神山地は、原性の高いブナの天然林が広範囲に保存されており、多様な動植物相が見られ、氷河期以降の新しいブナ林の東アジアにおける代表的なものである。



提供：延暦寺

⑤ 古都京都の文化財

〔京都市・宇治市・天津市〕

Historic Monuments of Ancient Kyoto

〔Kyoto, Uji and Otsu Cities〕
構成資産：1,056 ha
緩衝地帯：3,579 ha

《京都府・滋賀県》
登録：1994年
世界遺産登録基準：(ii) (iv)

京都は、794年に桓武天皇によって平安京が誕生して以来、鎌倉、室町、安土桃山、江戸時代に至るまで、1000年以上にわたって栄えてきた日本の中心都市である。日本の首都として歴史の舞台になってきた神社、寺院、城郭などが良好に保存されている。



提供：南砺市

⑥ 白川郷・五箇山の 合掌造り集落

Historic Villages of Shirakawa-go and Gokayama

構成資産：68 ha
緩衝地帯：4,335 ha

《岐阜県・富山県》
登録：1995年
世界遺産登録基準：(iv) (v)

合掌造り家は、釘を一本も使わず建てられており、多くの家の屋根は茅葺きである。豪雪地帯で雪に耐えるために屋根の傾斜を急角度にしたり、養蚕業を営むために内部を何層にも分けるといった工夫が実り、岐阜県と富山県にまたがる3集落にある合掌造り家屋と周辺自然环境が世界文化遺産に登録された。



提供：広島県

⑦ 原爆ドーム

Hiroshima Peace Memorial

〔Genbaku Dome〕

構成資産：0.39 ha
緩衝地帯：43 ha

《広島県》
登録：1996年
世界遺産登録基準：(vi)

原爆ドームは、広島市に投下された原子爆弾によって破壊された広島県産業奨励館の残骸で、当時の姿のまま保存されている。世界の歴史においても普遍的価値を有している貴重な遺産である。



提供：厳島神社・厳島 FP10001号

⑧ 厳島神社

Itsukushima Shinto Shrine

構成資産：431 ha
緩衝地帯：2,634 ha

《広島県》
登録：1996年
世界遺産登録基準：(i) (ii) (iv) (vi)

厳島神社の本社社殿、拝殿、幣殿など17棟、その周辺にある大鳥居、五重塔、多宝塔など国宝6棟、国重要文化財11棟・3基を擁する建築群と、それらと一体となった前面の海、背後の弥山（みせん）原始林を含む森林地域が世界遺産に登録されている。潮の干満を利用した神社の設計は国際的にも例がなく、建造物と自然とが一体になった価値が高い。



提供：奈良県

⑨ 古都奈良の文化財

Historic Monuments of Ancient Nara

構成資産：617 ha
緩衝地帯：1,963 ha

《奈良県》
登録：1998年
世界遺産登録基準：(ii) (iii) (iv) (vi)

日本の国家の基礎が整った奈良時代の文化をそのまま伝え、東大寺を始めとした建造物と春日山原始林に代表される自然とが一体になった環境が良好に保存されている事例である。



提供：日光市

⑩ 日光の社寺

Shrines and Temples of Nikko

構成資産：51 ha
緩衝地帯：3731 ha

《栃木県》
登録：1999年
世界遺産登録基準：(i) (iv) (vi)

「日光の社寺」は、江戸時代における霊廟を中心とする社寺の偉容を伝える建造物群と、これを取り巻く「二荒山神社」、「東照宮」、及び「輪王寺」からなる史跡日光山内の地域が一体となって良好に遺存している。17世紀から受け継がれている日本的宗教空間の極めて貴重な事例である。



⑪ 琉球王国のグスク 及び関連遺産群

Gusuku Sites and Related Properties of the Kingdom of Ryukyu

構成資産：55 ha
緩衝地帯：560 ha

《沖縄県》
登録：2000年
世界遺産登録基準：(ii) (iii) (vi)

琉球が琉球王国への統一に動き始める14世紀後半から、王国が確立した後の18世紀末にかけて生み出された、琉球地方独自の特徴を表す文化遺産群。当時の日本の文化とは異なった国際色豊かな独特の文化である。



提供：和歌山県

⑫ 紀伊山地の霊場と 参詣道

Sacred Sites and Pilgrimage Routes in the Kii Mountain Range

構成資産：495 ha
緩衝地帯：11,370 ha

《三重県・奈良県・和歌山県》
登録：2004年
世界遺産登録基準：(ii) (iii) (iv) (vi)

本州最南端に位置する紀伊山地の高野山、熊野三山、吉野・大華は、古代以来多様な信仰の形態によって育まれてきた神仏の霊場であり、参詣道（巡礼路）とともに、広範囲に亘って極めて良好に遺存している比類のない事例である。



⑬ 知床

Shiretoko

構成資産：34,000 ha
緩衝地帯：37,100 ha

《北海道》
登録：2005年
世界遺産登録基準：(ix) (x)

知床半島の位置するオホーツク海は、地形的・地理的条件により、海水ができる海洋として世界で最も低緯度に位置する季節海水域である。その季節海水の形成による影響を大きく受けた「知床」は、海洋生態系と陸上生態系との相互関係を示す複合生態系の顕著な見本である。また、半島の複雑な地形と東西で異なる気候の差により、動植物の種の多様性が高く、シマフクロウなどの国際的希少種の重要な繁殖地や越冬地となっている。



提供：島根県

⑭ 石見銀山遺跡と その文化的景観

Iwami Ginzan Silver Mine and its Cultural Landscape

登録：2011年
世界遺産登録基準：(ii) (iii) (v)

《島根県》
登録：2007年
世界遺産登録基準：(ii) (iii) (v)

16世紀～17世紀において多くの銀を生産し、さらに日本国内の後発の鉱山へと技術が伝播することにより、日本における金銀の大量生産時代を招き、東アジア地域のみならず欧州社会を含めた東西世界の文物交流及び文明交流の歴史に多大な影響を与えた顕著な普遍的価値を持つ鉱山遺跡である。



⑮ 小笠原諸島

Ogasawara Islands

構成資産：7,939 ha

《東京都》
登録：2011年
世界遺産登録基準：(ix)

小笠原諸島は、小面積でありながら、そこで見ることのできない固有種の割合が高いこと、特に陸産貝類と維管束植物において、適応放散という進化の過程の貴重な証拠が多い。



提供：岩手県

⑯ 平泉

—仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—

Hiraizumi—Temples, Gardens and Archaeological Sites Representing the Buddhist Pure Land

構成資産：187 ha
緩衝地帯：5,998 ha

《岩手県》
登録：2011年
世界遺産登録基準：(ii) (vi)

「平泉」は、6世紀に中国・朝鮮半島から伝来し、日本古来の自然崇拝思想と融合しつつ、12世紀にかけて独特の性質を持つものへと展開を遂げた日本の仏教、その中でも特に興隆した浄土思想に基づき、現世における仏国土（浄土）の空間的表現を目指して創造された。その中でも東アジア地域における建築・庭園の意匠・設計に関する人類の価値観の重要な交流を示していること、及び建築・庭園の分野における人類の歴史の重要な段階を示す傑出した類型である。



提供：山梨県

⑰ 富士山

—信仰の対象と芸術の源泉

Fuji-san, sacred place and source of artistic inspiration

構成資産：20,702 ha
緩衝地帯：49,627 ha

《山梨県・静岡県》
登録：2013年
世界遺産登録基準：(iii) (vi)

神聖で荘厳な富士山は、山域から山頂への登拝や山麓にある霊地への巡礼により、富士山に住まう神仏の霊力を獲得し、いったん死んで生まれ変わる「甦死再生（さしさいせい）」を求めるといふ「富士山信仰」を育んだ。また、海外の芸術家にも影響を与えた浮世絵など多くの芸術作品に取り上げられた。このように、富士山は信仰の対象と芸術の源泉であることから価値が高い。



提供：群馬県

⑱ 富岡製糸場と 絹産業遺産群

Tomioka Silk Mill and Related Sites

構成資産：7.2 ha
緩衝地帯：414.6 ha

《群馬県・静岡県》
登録：2014年
世界遺産登録基準：(ii) (iv)

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、日本初の器械製糸工場（富岡製糸場）、近代養蚕農家の原型（田島弥平旧宅）、養蚕教育施設（高山社跡）、蚕種保存施設（荒船風穴）から構成される糸の生産工程を表す遺産であり、養蚕・製糸の分野における技術交流と技術革新の場として世界的な意義を有する遺産である。4つの構成資産が効果的に機能することにより、高品質な糸の大生産が実現し、20世紀初頭の世界の糸糸市場において日本が大きな役割を果たしたことを今日に伝えている。



提供：「明治日本の産業革命遺産」世界遺産協議会

⑲ 明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業

Sites of Japan's Meiji Industrial Revolution: Iron and Steel, Shipbuilding and Coal Mining

構成資産：85 ha
緩衝地帯：2,408 ha

《福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・鹿児島県・山口県・岩手県・静岡県》
登録：2015年
世界遺産登録基準：(ii) (iv)

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、主に日本の西南地域に位置する23の構成資産からなる一群の遺産であり、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて、日本が製鉄・製鋼、造船、石炭産業の発展を通じて急速な産業化を成し遂げたことの証左である。19世紀半ば以降封建時代の日本が欧米からの技術移転を模索した過程や、導入した技術をどのように国内のニーズや社会的伝統に適合させたかを示し、西洋から非西洋国家に初めて産業化の伝播が成功したことを証言している。



提供：国立西洋美術館

⑳ 国立西洋美術館 （ル・コルビュジェの建築作品 —近代建築運動への顕著な貢献—）

The Architectural Work of Le Corbusier

構成資産：98.93 ha
緩衝地帯：1,330 ha（内国立西洋美術館 116.17 ha）

《国立西洋美術館：東京都
その他：フランス・ドイツ・スイス・ベルギー・アルゼンチン・インド》
登録：2016年
世界遺産登録基準：(i) (ii) (vi)

パリを拠点に活躍した建築家・都市計画家ル・コルビュジェの作品のなかから選ばれた三大陸7か国に所在する17の構成資産からなる。これらの資産は、新しい時代の社会や生活のニーズに応える革新的な解決策を示し、20世紀における「近代建築運動」の歴史とその世界的影響を語る重要な建築作品群であることが認められ、世界文化遺産に登録された。我が国の国立西洋美術館は、ル・コルビュジェに特徴的な設計要素を随所に見出せる点で貴重である。



提供：「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

㉑ 「神宿る島」宗像・沖ノ島と 関連遺産群

The Sacred Island of Okinoshima and Associated Sites in the Munakata Region

構成資産：98.93 ha
緩衝地帯：79,363.48 ha

《福岡県》
登録：2017年
世界遺産登録基準：(ii) (iii)

沖ノ島には、4世紀から9世紀の間の古代祭祀の変遷を示す考古遺跡が、ほぼ手つかずの状態で現代まで残されてきた。また、古代祭祀遺跡を含む沖津宮、中津宮、辺津宮は、宗像大社という信仰の場として現在まで続いており、その信仰を担い育んだ宗像氏の存在を物語る遺産が、新原・奴山古墳群である。「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、「神宿る島」沖ノ島を崇拜する文化的伝統が、古代東アジアにおける活発な対外交流が進んだ時期に発展し、海上の安全を願う生きた伝統と明白に関連し今日まで継承されてきたことを物語る稀有な物語である。



撮影：日暮 雄一、提供：長崎県

㉒ 長崎と天草地方の 潜伏キリタン関連遺産

Hidden Christian Sites in the Nagasaki Region

構成資産：5,566.55 ha
緩衝地帯：12,252.52 ha

《長崎県及び熊本県》
登録：2018年
世界遺産登録基準：(iii)

本資産は、16世紀にキリスト教が日本へ伝来し、その後の江戸幕府による禁教政策の中で「潜伏キリタン」が密かにキリスト教への信仰を継続し、長崎と天草地方の各地において厳しい生活条件の下に、既存の社会・宗教と共生しつつ、独特の文化的伝統を育んだことを物語る貴重な証拠である。



提供：堺市

㉓ 百舌鳥・古市古墳群 —古代日本の墳墓群—

Moju-Furuichi Kofun Group Mounded tombs of Ancient Japan

構成資産：166.66 ha
緩衝地帯：890.00 ha

《大阪府》
登録：2019年
世界遺産登録基準：(iii) (iv)

百舌鳥・古市古墳群は、古墳時代の最盛期であった4世紀後半から5世紀後半にかけて、当時の政治・文化の中心地のひとつであり、大陸に向かう航路の発着点でもあった大阪湾に接する平野上に位置する。増長500メートル近くに達する前方後円墳から20メートル台の墳墓まで、大きさや形状に多様性を示す古墳群は世界でも独特なものであり、その墳丘は葬送儀礼の舞台として幾何学的にデザインされ連綿と外観が飾り立てられていた。本資産は、土製建造物のたくいまれな技術的到達点を表し、古墳時代独自の我が国の文化を物語るものである。